

モモのジョイントV字トレリス樹形における果実生産性

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹－モモ－整枝・剪定

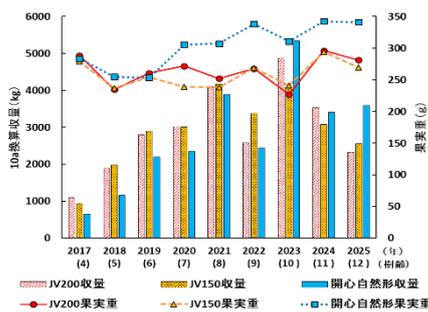
2 担当者名

秋山祐輝、志村浩雄、阿部和博

3 要旨

「あかつき」におけるモモジョイントV字トレリス樹形（以下「JV」という。）は、慣行の開心自然形と比較して早期多収で、収量は樹齢10年生で10a当たり3t以上を確保できる。一方で、樹齢10年生をピークに収量は減少傾向となり、樹齢12年生では開心自然形より少なくなる。

- (1) JVの10a換算収量は、樹齢10年生で3t以上を確保でき、10年生まではJVの方が開心自然形よりも累積収量が多い。一方で、11年生以降は下枝の着果が減少し、樹齢12年生では収量が開心自然形よりも顕著に低くなった（図1）。
- (2) JVは、樹勢が強く、収穫期の遅れと果実が小さくなる傾向があるが、着色や糖度などについては開心自然形と差はみられなかった（表1）。
- (3) 「川中島白桃」などの晩生種についても、JVによる早期成園化が可能であるが、強樹勢化や果実が小さいなど、同様の傾向がみられている。



注) JV150は、樹間1.5mで植栽して連結し、1ユニット4樹で4反復。

JV200は、樹間2.0mで植栽して連結し、1ユニット3樹で2反復。

図1 モモ「あかつき」のJVの果実生産

表1 モモ「あかつき」のJVの収穫期と果実品質
(2021～2025年平均)

樹形	収穫盛 (月/日)	果実重 (g)	着色 指数	硬度 (kg)	糖度 (° Brix)
JV150	8/1	280	4.9	2.16	13.0
JV200	8/2	281	4.9	2.15	12.8
開心自然形	7/26	332	4.8	2.36	13.0

注) 着色指数は1:着色無し～5:全面着色で評価。

注) JV150は、樹間1.5mで植栽して連結し、1ユニット4樹で4反復。

JV200は、樹間2.0mで植栽して連結し、1ユニット3樹で2反復。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3～7年度
- (2) 研究課題名 ナシ・モモのジョイントV字樹形の導入による果樹の早期成園化と省力化技術の実証〔農林水産分野の先端技術展開事業(JPJ009997)〕

5 主な参考文献・資料

- (1) 三田村ら、モモジョイントV字トレリス栽培は多収で栽培性に優れる R2 実用化技術情報